

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果

平成28年4月に全国の小学校6年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査が行われました。このほどその結果が送られてきましたので、調査結果の概要と今後の指導の方針についてお知らせします。

《 調査の目的 》

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育政策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てる。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。（文部科学省 平成28年 全国学力・学習状況調査に関する実施要領より引用）

1 結果

	A：知識に関する問題			B：活用に関する問題		
	平均正答率(%)			平均正答率(%)		
	神大寺小	神奈川県(公立)	全国(公立)	神大寺小	神奈川県(公立)	全国(公立)
国語	75.8	70.3	72.9	66.2	58.2	57.8
話すこと・聞くこと	80.0	79.9	79.2	60.3	52.1	51.1
書くこと	79.2	73.8	72.8	62.1	53.4	53.4
読むこと	83.5	78.6	78.5	79.0	69.0	69.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.2	67.0	71.1			
算数	83.4	76.6	77.6	55.4	47.3	47.2
数と計算	85.5	78.9	80.5	53.7	45.2	44.4
量と測定	83.1	76.9	77.0	51.4	43.6	43.7
図形	81.9	76.2	78.8	44.1	36.6	36.3
数量関係	78.7	69.6	68.5	52.4	42.8	42.9

2 具体的な学習状況

《 国語 》

○よい状況

- 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開にそって質問する
- 登場人物の人物像について、複数の叙述を基に捉える
- 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する
- 目的や意図に応じて、書く事柄を整理する
- ローマ字を正しく読んだり書いたりする

●課題

- グラフを基に、分かったことを的確に書く
- 目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合う
- 目的に応じて質問したいことを整理する
- ローマ字を正しく読んだり書いたりする

《 算数 》

○よい状況

- 除法における、除数と商・被除数の関係についての理解
- 図形の性質を理解しそれを基に答えの説明をする力
- 単位量当たりの大きさを求めるために必要な情報を特定できる力
- 表やグラフに示された情報から分かる事柄・わからない事柄を弁別する力

●課題

- 伴って変わる二つの数量の関係(対応や変化)
- 式の中の数値の意味を解釈しそれを記述する力
- 角の大きさを基に式の意味を説明し記述する力
- 図形を構成する角の大きさを基に敷き詰めた形を判断する力
- グラフに示された事柄が正しくない理由を記述する力
- 小数の除法における除数と被除数についての理解
- グラフや図形から情報を読み取り論理的な思考で記述する力

3 児童質問紙調査（児童意識調査）結果

児童質問紙（意識調査）と学習の関係から見られる傾向

○学習への関心

- ・全国的に国語や算数の学習に対して肯定的にとらえている児童の正答率が高いという傾向がみられる。本校では、各教科とも「勉強が好きだ」、「勉強は大切だ」「授業の内容がよくわかる」「学習したことは将来、社会に出た時に役立つ」と考えている児童が全国平均より高く、学習に対する意欲や関心の高さが読み取れる。反面、自分の考えを伝えたり、文章で表現したりすることに課題がみられた。

○計画的な家庭学習

- ・全国的に「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の問いに対し、「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童は、「あまりしていない」「全くしていない」と答えた児童よりも、正答率が10～20%ほど高い傾向にある。本校の児童は、65%ほどの児童が計画を立てて学習していると答えており、さらに「横浜市家庭学習時間の目標：60分/日」の達成率は、71.6%と双方とも高い傾向である。これらの結果から、家庭学習の習慣はついてきている。

○基本的な生活習慣

- ・「朝食を毎日食べていますか」の問いには、97%を超える児童が、食べてきていると回答している。「毎日同じくらいの時間に寝ている」は20%、「毎日同じくらいの時間に起きている」は、7%、全国平均を上回り、規則正しい生活ができている子が多く望ましい生活習慣といえる。

○携帯電話、スマートフォンの使用

- ・携帯電話、スマートフォン等で通話やメール、インターネットをする時間と正答率の関係も示されている。使用する時間が短い児童の正答率が高いという傾向がある。本校では、「持っていない」30分以内の使用の児童が平均よりかなり高い（70%以上）。しかし、平日にゲームを1日1時間以上する児童は50%を超えていて、学習時間が確保の確保は課題となる。

○自尊感情と学習

- ・自尊感情の高い児童の方がどの教科も正答率が高い傾向にある。

4 今後の手立て

○国語

- ・様々な資料の読み取り方を日常的に指導し、幅広い情報の読み取り方に触れるようにする。
- ・文の構成について、低学年から発達段階にあった指導をして積み重ねていく。
- ・音読では、観点を具体的に示したり教師が範読したり友達と互いに聞き合ったりして、繰り返し声に出して読むことで、想像を広げられるよう指導していく。
- ・ローマ字に関しては、3学年で学習したきりで授業で触れる機会がなくなるが、国語の時間に限らず他教科でPCを使った検索や資料作りなどを行い、ローマ字に触れる機会を多くする。

○算数

- ・図形では、立体図形―見取り図―展開図を関連づけて理解できるよう指導していくことや、デジタル教材を使ったり視覚に訴える教具の工夫を行ったり、よりイメージしやすい授業作りに取り組む。
- ・算数の学習では、「根拠を明らかにして、論理的に説明する」ことができるよう、日々の授業中相手に的確に伝わるような話し方をより具体的に示した言語活動を取り入れる。
- ・問題文の解釈の力や論理的な記述の力を高めるため、算数用語を正しく使いながら、問題文と図、図と式を関連づけて正しくとらえられるように指導する。

○生活

- ・児童一人ひとりが自分を肯定的に捉えられるように声かけなどを意識していく。
- ・友達と話し合う活動や、発表の機会を多く設けるなど意図的、計画的に授業に位置付け、自分からの発信力を高める。
- ・家庭学習の習慣づけのため、1年生から6年生まで系統的に指導していく。